

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

子どものアイデア、保育者のアイデア／社会福祉法人顕真会 よいこのもり保育園・よいこのもり第2保育園

子どもたちが展開する遊びの中に、アイデアが溢れていますか？
子どもたちのアイデアを引き出す、保育者のアイデアは環境に溢れていますか？
今回は子どもたちのアイデアや保育者のアイデアが、「科学する心を育てる」保育に結び付いている事例をご紹介します。



面白アイデア・工夫（ペットボトル・ストロー）／3・5歳児

✦ 3歳児 ヘこんだペットボトル

へこんでしまったペットボトル。
「見てて」と言いながら中に水を入れると、「元に戻った」と子どもたち。
「水が中から押してるんだよ」



✦ 5歳児 ストローに色紙を巻いて作るストローロケット：遊びながら出てきたいろいろなアイデア

● 子どものアイデア



ストローに色紙を巻く時、ゆる過ぎて太くなくても、きつくて飛ばない。一緒に飛ばしている友達が、「飛ばないのはどうしてかな？」と考えながら言うと「大きいところから空気が出てくるから飛ばないよ。一緒に作ってみよう」と言う。



ロケットだから上に発射！と、初めは上に向けて飛ばす。前に飛ばすと、どこまで飛ばせるか分かることに気付く。ストローの向きを工夫して、遠くに飛ばすようになる。



「本体が短い方がよく飛ぶ」と言い、本体を切る。「軽い方がよく飛ぶ」と言い、花飾りを取る。



「ストローロケットの大きい版を作りたい」と今までより太い紙の筒をロケットにする。セロハンテープで隙間をふさぎ飛ばすが、ストロー1本では飛ばない。2本で飛ぶ。10本のストローを付ける。1人ではできないので「みんなでやってみよう」と、ストローを1人3~4本くわえて、3人で飛ばす。真上に高く飛び喜ぶ。

✦ 5歳児 ペットボトルロケット：保育者のアイデア

紙のロケットを飛ばした子どもたちは、「もっと大きなロケットを飛ばしたい」と、ペットボトルを教材コーナーから持ってくる。

● 子どものアイデア

空気がたくさん必要だと考え、保育園の一輪車用の空気入れを使って、ペットボトルに空気を入れる。空気はたくさん入るが、口の隙間から漏れる。

● 保育者のアイデア

「先生、どうしよう」と言う子どもたち。保育者は空気入れの針を使うことにした。蓋としてコルク栓を用意し、穴をあけ、そこへ空気入れの針を差し込んだ。



子どもたちはコルクの蓋を見て、「これなら絶対空気が漏れないね」「魔法の栓だ」と言い、早速ペットボトルに栓をして空気を入れた。

● その後

350mlのペットボトルに空気入れて2回空気を入れただけで、5m飛んだ。その後少しずつ大きなペットボトルを試し、1500mlを試した。空気をたくさん入れたが、350mlのペットボトルより飛ばなかった。そして、さらに試行錯誤を重ねた。



✦ 考察

ストローロケットよりももっと大きなロケットを飛ばしたいと話している子どもの考えを尊重しながら取り組んでいくことで、子どもが「こうしたらいい」という考えを積極的に主張できる環境を作ることができた。アイデアを出し合い、試行錯誤を重ねることで、飛ぶ距離が違った。その違いは、子どもたちが見てはっきり分かるため、面白さや関心が高まった。この遊びの過程で、「科学する心」が育まれている。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム
幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」